

内科医としての守備範囲が広い

腎臓疾患専門医を目指す

腎臓内科

慢性腎臓病は末期腎不全や心血管疾患の大きな危険因子であることから、慢性腎臓病対策の重要性が認識されてきています。

しかし、当院においては入院時まで未治療で、入院と同時に透析導入が必要な慢性腎不全の患者さまがまだ多数おり、慢性腎臓病への啓蒙が必要と考えています。そういう中で、健康診断あるいはかかりつけ医から紹介していただいた①蛋白尿が多い②血尿・蛋白尿を示す③eGFRが低下している患者さまに対し、適応症例に腎生検を施行します。状態が安定している患者さまについてはかかりつけ医と連携を密にしながら治療を続けたいと考えております。

また当科では、急性・慢性糸球体腎炎、急性腎不全、保存期慢性腎不全および血液透析導入、全身性疾患伴う腎病変などの入院を扱っています。2015年の入院総数は255名でした。

血液透析は、ベッド数15床で導入および合併症治療を中心に行っています。2015年の透析導入患者数(糖尿病・代謝内科導入を含む)は52名でした。導入後は近隣の透析施設に紹介しています。また、合併症治療のため、当科、消化器内科、血液内科、循環器内科、眼科、外科、脳外科、精神科、形成外科などに近隣の透析施設より紹介されます。

消化器内科と連携し潰瘍性大腸炎やクローン病の血液浄化療法(GCAP,LCAP)も行ってます。

腎臓病に関する豊富な症例を研修することができると考えています。



腎臓内科研修指導責任者
倉本 充彦

腎臓内科部長 /
日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医

■研修指導医
副部長 / 森山 恵明
日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医

01 研修期間

3年間(希望により1年単位の延長可能)

02 目的

当院は北総地域の3次救急対応の地域拠点となる総合病院ですが、専門性を要する腎疾患の診療を必要とする患者が年々増加しています。当院腎臓内科は以下の具体的目標とする専門研修を行い、腎臓専門医の育成を目指しています。併せて広く内科診療のプライマリーケアに習熟し、一般内科医としての素養を高めることを目指しています。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

- (1) 腎炎、ネフローゼ、腎不全等腎臓内科領域の疾患の診療に関わる専門的知識を習得する。
- (2) 各種血液浄化療法に関わる専門的知識を習得する
- (3) 腎生検等、腎臓内科医として必要な技術を習得する。
- (4) 腎組織標本の診断に関し、腎臓内科医として必要な病理学的知識を習得する。
- (5) 内科一般の救急診療等を通して全身的、全人的な幅広い一般常識を習得する。
- (6) 症例検討に十分な文献的検索を加え、貴重な症例を報告できる能力を鍛える

04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本内科学会教育施設
日本腎臓学会	日本腎臓学会専門医	日本腎臓学会専門医制度基幹
日本透析医学会	日本透析医学会専門医	日本透析医学会教育関連施設

05 研修期間中に経験する症例等について

